

原色甲殻類検索図鑑

農 学 博 士
武 田 正 倫 著

KEYS TO THE JAPANESE AND FOREIGN
Crustaceans
FULLY ILLUSTRATED IN COLORS
FIRST EDITION

by
Masatsune Takeda

北 隆 館

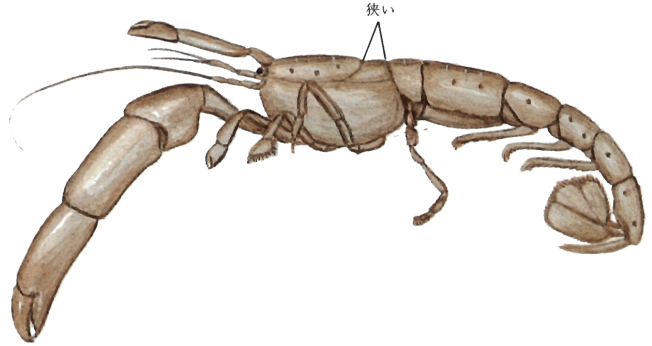
HOKURYUKAN
Tokyo, Japan
1982

● すなもぐり 145

Callianassa petalura

Stimpson

外洋性の磯で、砂にうもれて生活する種で、半透明。頭胸甲は円筒状で、腹部はかなり平ら。額角はない。眼柄も平らで、左右が互いに平行。第1胸脚は左右不相称。第1、2胸脚ははさみをもち、第5胸脚は不完全なはさみに終る。第2胸脚の前節は楕円形。抱卵期は4～6月。〔分布〕本州、四国、九州、ビョートル大帝湾。



体長 5 cm

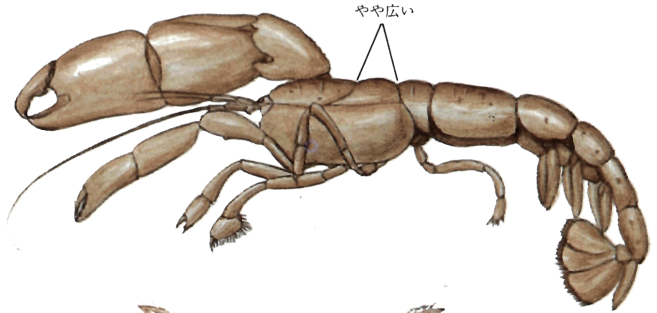
〔すなもぐり科〕

● にほんすなもぐり 146

Callianassa japonica

Ortmann

アナジャコによく似ているが、内湾性の磯の砂泥地に穴を掘ってすむ。大きい方の第1胸脚のはさみは一般にすなもぐりのものよりもずっと大きい。指の歯の形には変異がある。頸溝から頭胸甲の後縁までの距離が頭胸甲長の約 $\frac{1}{4}$ (すなもぐりでは $\frac{1}{5}$)である。〔分布〕北海道以南、韓国、中国北部、台湾。



体長 6 cm

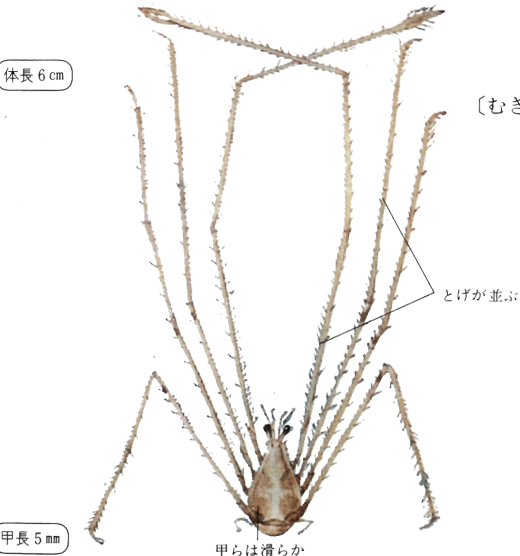
〔すなもぐり科〕

● むぎわらえび 147

Chirostylus dolichopus

Ortmann

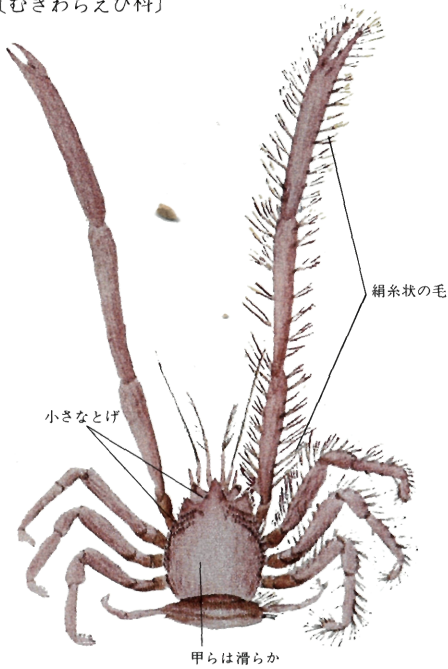
はさみ脚、歩脚が著しく細長く、雄のはさみ脚は甲長の10倍以上に達する。甲らは滑らかで、鰓域がふくらんでいる。甲らの前側縁に数本の小さなとげがある。額角はなく、眼柄は太い。胸脚は細長く、多数のとげで縁取られている。水深20～70mで、ウミカラマツ類やトゲハネウチワなどについている。〔分布〕浦賀水道、相模湾。



甲長 5 mm

〔むぎわらえび科〕

〔むぎわらえび科〕



甲長 5mm

〔こしおりえび科〕

胃城の前端に1対のとげ



〔こしおりえび科〕

額角が大きい



幅は個体により異なる

甲長 8mm

148 とげわらえび

Uroptychus scandens

Benedict

水深50～350mの砂泥底に立っているウミエラ類につく種で、はさみ脚は長く、雄では3cmに達する。額角は鋭く突出する。甲面はほとんど滑らかであるが、前側部にとげ状のかたい毛がはえている。はさみ脚は左右相称で、絹糸状の毛の束が並んでいる。雄では可動指に歯がある。〔分布〕房総半島から九州、東シナ海、バンダ海。

149 とうようこしおりえび

Galathea orientalis

Stimpson

低潮帯から水深200mくらいまでにすむ小形種で、個体数が比較的多い。色は必ずしも一定しておらず、もっとも多い緑褐色のほか、赤褐色のものもあり、正中線に白い縦縞があることが多い。甲面には約10本の横しわがある。額角は甲長の $\frac{1}{2}$ で、側縁に3つの歯がある。雄のはさみ脚は大きい。〔分布〕北海道南部以南、東シナ海、ホンコン。

150 こまちこしおりえび

Allogalathea elegans

(Adams et White)

低潮帯から水深100mくらいまでにすむウミシダ類につく。宿主と同系統の色彩の縦縞があるが、その太さにはかなりの変異がある。額角は甲長の約 $\frac{1}{2}$ で、側縁に5～9の小さな歯がある。甲らの背面には短い毛で縁取られた横すじがあり、側縁に8～9の歯がある。〔分布〕相模湾以南の西太平洋、インド洋。

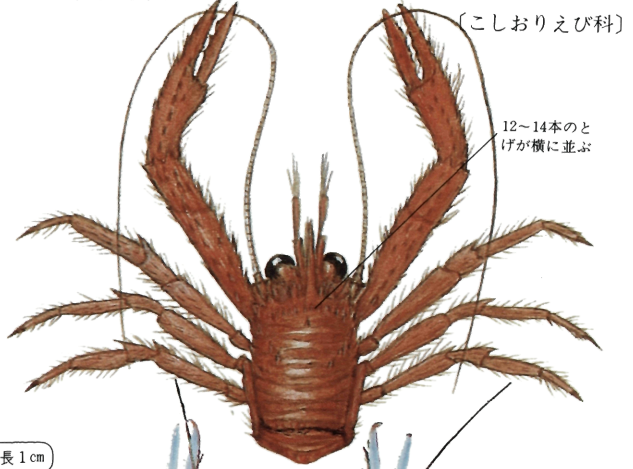
甲長 5mm

ちゅうこしおりえび ⑮

Munida japonica

Stimpson

額角は鋭いとげ状で、約5mmに達する。甲面には多数の横すじがあるが、さらに胃域の前縁に13本ほどの小さなとげが1列に並び、胃域の中央部と左右に1本ずつとげがある。はさみ脚は雄ではとくに長く、長い毛と鋭いとげでおおわれている。水深50~500mにすむ。〔分布〕津軽海峡から九州、東シナ海、インド洋西部、紅海。

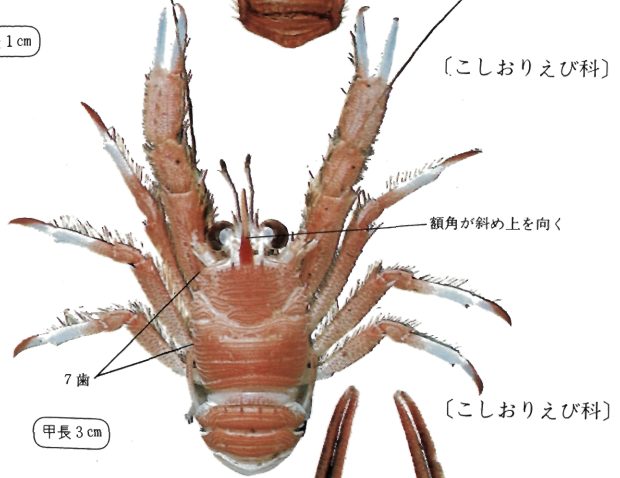


あかつのこしおりえび ⑯

Munida andamanica

Alcock

その名の通り額角の赤い美しい種で、水深300~700mから記録されている。額角は頭胸甲長の1/2以上で、斜め上方を向く。頭胸甲の側縁には合計7本のとげがある。胃域の前に小さなとげの列がある。はさみ脚は比較的短く、体長にほぼ等しい。〔分布〕相模湾から土佐湾、東シナ海、アンダマン海、アラビア海。



おおこしおりえび ⑰

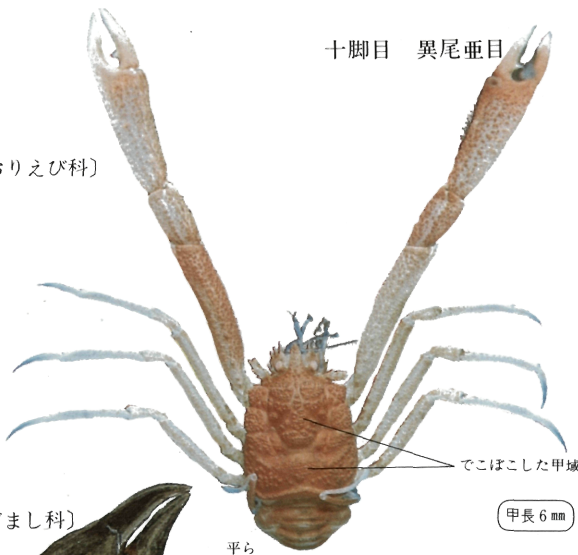
Cervimunida princeps

Benedict

雄のはさみ脚は20cmに達する。額角は約2cmで、上縁に2本の大きなとげと数本の小さなとげがある。甲面には短い毛で縁取られた横しわがあり、胃域の前縁に7~9本、前鰓域に2本、甲らの側縁に5~6本のとげがある。歩脚は平らで、短い毛ととげが多数ある。水深80~450mにすむ。〔分布〕日本特産で、金華山沖および山形県沖から九州まで。



〔こしおりえび科〕



154 さめはだしんかいこしおりえび

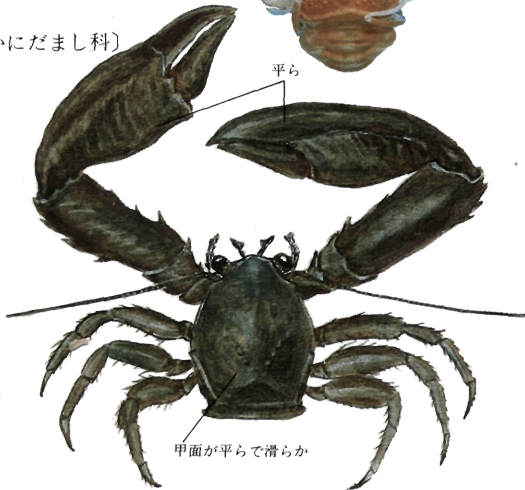
Munidopsis granulata

Miyake et Baba

額角は約2mmで、細長い三角形。甲面は深い溝で甲域に分けられ、各甲域はでこぼこしている。甲らの前側角にはとげ状の歯が1つある。腹部にはやや深い横溝があるが、粒はない。はさみ脚は細長く、粒でおおわれている。歩脚の長節の前縁には6本のとげがある。水深110~200mにすむ。〔分布〕日本特産で、相模湾と駿河湾。

〔かにだまし科〕

甲長6mm



155 いそかにだまし

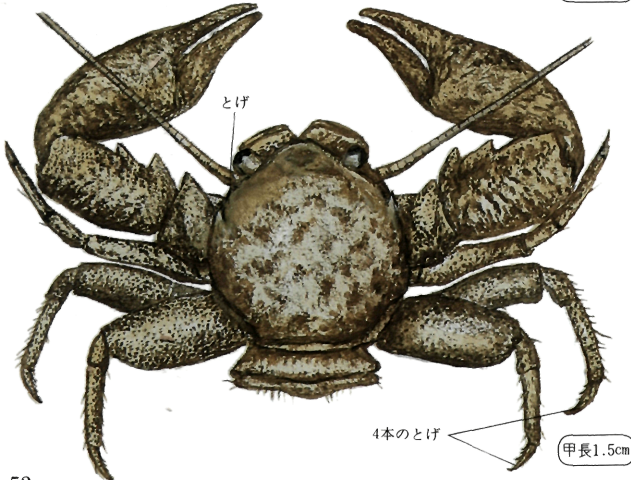
Petrolisthes japonicus

(de Haan)

岩礁の転石の下にごくふつうに見られ、暗緑色であることが多い。左右のはさみを支えにして、後ずさりして逃げる。はさみ脚を自切りやすい。甲らは滑らかで、側縁にとげはない。はさみ脚の腕節は、前縁の基部に1個、後縁の先端に2~4個の歯がある。〔分布〕東京湾および佐渡島以南、ホンコン、インドネシア、メルギー諸島。

〔かにだまし科〕

甲幅1cm



156 ひろはかにだまし

Petrolisthes lamarckii

(Leach)

主としてサンゴ礁にすむ種で、礁原のすき間や死サンゴの間などに個体数が多い。甲面は滑らかで、毛はない。眼上棘はないが、前鰓棘は鋭い。はさみ脚の腕節は甲長の約 $\frac{3}{4}$ で、幅広い歯が普通3つある。歩脚の前節の下縁には4本のとげがあって、うち2本が先端部で対をなす。〔分布〕紀伊半島以南の西太平洋、インド洋。

甲長1.5cm